

宮城県経済の動き

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから総じて回復の動きが鈍化し、一部で弱めの動きがみられている。

概 況

生産は弱い動きとなっている。需要面の動きをみると、公共投資はなお高めの水準ながら、震災復旧工事を中心に減少基調となっている。住宅投資は震災に伴う建替需要の反動などにより減少している。個人消費は総じて横ばい圏内で推移しているが、消費税率引上げに伴う反動などにより下振れしている。雇用情勢は改善が足踏みしている一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている。

この間、新型肺炎の影響などから金融資本市場の動揺や経済活動の制約に広がりが見られている。

今月のポイント

仙台市の観測史上（1927年以降）最高の平均気温（4.0℃）を記録した1月、冬物商材を扱う企業には痛手の大暖冬となりましたが、減少した防寒・暖房関連支出が他に回るなど消費マインドには底堅さも感じられました。一方、震災後の経済成長エンジンだった生産活動や仙台圏での建設投資は牽引力を失い、景気を下押ししつつあります。

連日報道される新型肺炎の県内経済への影響はまだ数字で確認できませんが、宿泊・飲食サービスをはじめ広範にわたる経済的損失が懸念され、大規模な支援と正常な経済活動への回復が急がれます。

（田口 庸友）

（参考）県内景況判断の推移

	2020年1月	2月	3月
総括判断	経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している（据え置き）	震災復興需要の反動などから総じて回復の動きが鈍化し、一部で弱めの動きがみられている（下方修正）	震災復興需要の反動などから総じて回復の動きが鈍化し、一部で弱めの動きがみられている（据え置き）
生産	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている
公共投資	高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている	なお高めの水準ながら、震災復旧工事を中心に減少基調となっている	なお高めの水準ながら、震災復旧工事を中心に減少基調となっている
住宅投資	なお高めの水準ながら、建替需要の反動などにより基調としては減少している	建替需要の反動などにより減少している	建替需要の反動などにより減少している
個人消費	消費税率引上げに伴う振れがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している	総じて横ばい圏内で推移しているが、消費税率引上げに伴う反動などにより下振れしている	総じて横ばい圏内で推移しているが、消費税率引上げに伴う反動などにより下振れしている
雇用情勢	改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている	改善が足踏みしている一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている	改善が足踏みしている一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	（2019年4～6月）総じて停滞している	（7～9月）総じて停滞している	（10～12月）総じて停滞している

注）下線は前月（回）からの変更箇所

宮城県の経済情勢に関するより詳細な情報については、機関誌「FLAG」および「77R&C会員情報サイト」にて、ご覧になることができます。